

自治体名	東京都 板橋区
------	---------

女性の健康づくり対策の概要

女性の健康づくりについては、これまでも健康福祉センターにおいて健康相談や講演会等の取組を実施してきたが、生活習慣病予防を中心とした内容であったため、全ての女性の健康問題に対応できる事業内容ではないという現状があった。

平成 20 年板橋区保健所が移転改築するにあたり、生涯を通じた女性の健康づくりを支援するため、板橋区女性健康支援センターを保健所 5 階に開設・運営を開始した。それまで区で実施していた区の女性の健康支援事業をまとめ、女性の健康づくりに特化し、常勤の職員を配置し、常時相談に応じられる体制となっている。

自治体の特徴

板橋区は東京 23 区のうち北西部に位置し、埼玉県と隣接している。旧中仙道や旧川越街道に沿って商業、志村地域では工業、赤塚地域では農地と住宅が混在しているという特徴がある。医療機関は大学病院等主要 4 病院のほか、診療所合わせて 400 箇所ある。

平成 21 年 4 月 1 日現在 年少人口 11.15% 老年人口 19.71%と少子高齢化が進んでいる。

人口構成 (H21. 4. 1 現在)

	総数	男	女
人	516,905	258,397	258,508
割合(%)		50.0	50.0
15歳未満	57,913	29,602	28,311
15～64歳	354,114	183,887	170,227
65歳以上	56,949	26,291	30,658
75歳以上	33,899	13,660	20,239
85歳以上	10,714	2,999	7,715

女性に関する健康課題

○平成 20 年度女性健康なんでも相談件数の内容種別は多い順に、婦人科疾患関連（不定愁訴含む）25%、女性のが
ん 20%、メンタルヘルス 13%であった。

乳がん・子宮がん SMR 区 都 (平成 15 年～19 年)

乳がん 104.2 100 (国を 100 とした場合、都は 118 で全国のトップ)

子宮がん 97.5 100 (国を 100 とした場合、都は 102.4 全国の中では中間)

乳がん・子宮がん受診率(平成 19 年度) 区 都 国

乳がん検診受診率 8.2% 9.1% 18.8%

子宮がん検診 8.7% 12.8% 14.2%

※女性のがん、特に乳がんの SMR については、板橋区は東京都の平均より高く、また乳がん・子宮がん検診受診率は、どちらも 8%台と低い。受診率を高めるための効果的な啓発手段を検討する必要がある。

○平成 20 年に実施した、4 か月児・3 歳児健診アンケート調査より産後の尿もれ経験率 23%

※中高年の尿もれ予防のためにも若い女性の尿もれ予防対策が必要。

事業費(千円)

(1) 女性の健康づくりに関する事業(総額)	5,635 千円
(2) 報告事業(再掲)	5,635 千円

事業名	女性健康支援センター事業
分野	■健康教育 □健康手帳の交付 ■健康相談 ■知識の普及 ■啓発普及
事業費（千円）	5,635

事業目的

生涯を通じた女性の健康づくりの拠点として、思春期以降の女性を対象に、ホルモンバランスの変化や女性特有の疾病に着目し、相談事業・各種健康講座・自助グループ活動・学習支援・乳がんに関する情報提供を行い、女性の健康力アップを支援する。

事業対象

思春期以降の女性や、女性の健康づくりに関連する関係機関

事業実施体制・展開

平成20年6月より、生涯を通じた女性の健康づくりを支援するため、板橋区女性健康支援センターを開設した。

【平成21年度事業内容】

- ① 女性健康なんでも相談
保健師による相談（月曜から金曜、午前9時から午後5時）
- ② 専門相談（6分野、予約制、相談員は全て女性）
月経・妊娠相談（助産師）、婦人科相談（医師）、尿もれ相談（コンチネンスケア相談員）
メンタルヘルス相談（医師）、思春期相談（臨床心理士）、乳がん生活相談（乳腺外来看護師）
- ③ 健康講座
不妊、がん予防、更年期および女性の健康と生きがいに関する講座の開催
- ④ リラクゼーション体験講座
- ⑤ ハッピー体操
- ⑥ 自助グループ育成支援
乳がん体験者の会、子宮がん体験者の会
- ⑦ 学習支援
女性の健康に関する図書の貸出、ビデオ・DVDの閲覧
- ⑧ 乳がんに関する情報提供
乳がん地域連携支援パスの作成等、区内医療機関との連携

事業目標・評価項目 及び その結果

平成21年度実績

ホルモンバランスの変化に着目した各年代に応じた相談者を増やす

なんでも相談 1,035件、専門相談 160件

- ① 女性の健康力アップができる、講座、自主グループを増やす
健康講座 20回 500人、出前講座 5回 92人、リラクゼーション体験講座 49回 834人、
ハッピー体操 44回 330人
乳がん体験者の会 7回 160人、子宮がん体験者の会 1回 5人 乳がん啓発活動など 18回 136人
- ② 医療機関をはじめとする、相談支援機関や地域団体との連携体制の構築をはかる
運営協議会開催年 2回、乳がん地域連携支援パス検討委員会開催年 1回

事業の工夫点

- 女性健康支援センターとして常設し、女性の健康支援を専門とした女性の職員が配置されたことで、いつでも安心して相談できる体制をとった。
- 女性の健康支援に関する情報を集約し、情報提供・情報発信ができる。
- 女性の健康支援に特化したことで、対象者に相談先がわかり易くなり、より効果的・効率的な健康支援が可能となる。
- より専門的な相談に対応できる6分野の専門相談体制を組んだ。

事業の効果についての評価・考察

女性健康支援センターができたことで、今までどこに相談してよいかわからず行政の相談にのぼらなかつた潜在的相談者・相談ニーズに応えることができ（相談窓口がわかり易い）、常設のセンター・常勤の職員が配置されることで、いつでも専門的な相談や、情報提供が受けられる（利便性の向上）、対象者にあったサービスをコーディネートして提供できる（トータルな健康支援）。また医療機関との連携がとり易くなった。

乳がんに関しては、体験者の会を立ち上げ支援したことから、患者自身がピンクリボン活動を実施（ピンクリボンキルトの作成と啓発）し、多くのマスコミに取り上げてもらい、区民はもちろんのこと、関係機関、区役所職員など大きな波及効果があった。今後も自主グループを増やし、支援体制を整えることで、住民自身が女性の健康づくりを推進する核となることを期待できる。

関係機関との連携については、事業を実施するうえで、また乳がん地域連携支援パスの検討会、運営協議会などを通じ、女性の健康づくりを支援するネットワークを構築中である。

今後の課題

女性の健康づくりを推進するうえで、さまざまな女性の健康課題を解決し予防していくためには、各区内関係部署、関係機関との役割分担や連携など、調整が重要である。

ホームページ	http://www.city.itabashi.tokyo.jp/	
照会先	東京都板橋区健康生きがい部健康推進課女性健康支援係	03-3579-2306

事業評価	(自己評価)	
①活動内容	5	女性健康支援センターができたことでこれまで行政の相談に上らなかつた潜在的な相談ニーズに応えることができた
②独創性	5	乳がん体験者の会が、ピンクリボン活動を実施するなど住民に、効果的な啓発活動が期待できる。
③普遍性	3	常設で常勤の職員の配置は、自治体によりむずかしいと思われるが、事業の内容によっては、利用可能と思われる。
④将来性	3	事業が普遍化したときには、女性の健康支援に特化した部署でなく実施した方が効果的になることも予測される。
⑤効果度	4	女性の健康に関することの相談機関として、窓口がわかり易くなった。
⑥信頼度	5	区直営で実施している。

